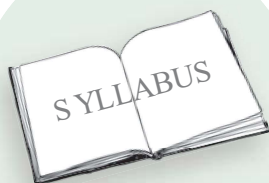




高校生を対象とした公開授業科目(第1学期) 履修案内(シラバス) ~2021年度版~



「シラバス」とは・・・

シラバスとは、各授業科目の詳細な授業計画のことです。
一般に、授業名、担当教員名、講義目的、
各回ごとの授業内容などが記されており、
学生が各授業科目の準備学習等を進めるための基本となるものです。



香川大学マスコットキャラクター

【お問い合わせ】

香川県教育委員会 高校教育課 教育指導グループ
〒760-8582 高松市天神前6-1
TEL 087-832-3750 FAX 087-806-0232

香川大学 教育・学生支援部 学務グループ
〒760-8521 高松市幸町1-1
TEL 087-832-1186 FAX 087-832-1155

※授業内容に関するお問い合わせは香川大学まで。

【公開授業科目(第1学期)】

授業科目名	教養/専門(注1)	担当教員	期間(注2)	曜日	時間	頁
学習環境の現在と未来	教養教育	笹屋 孝允 (教育学部)	4月12日～6月7日 (計8回)	月	16:20～17:50	1
現代暗号入門	教養教育	堀川 洋 (創造工学部)	4月15日～6月3日 (計8回)	木	16:20～17:50	2
身近な製品の仕組みとものづくりの基礎	教養教育	松田 伸也 (創造工学部)	4月15日～6月3日 (計8回)	木	16:20～17:50	3
創造工学の扉	教養教育	石塚 正秀 他 (創造工学部)	4月12日～6月7日 (1日2回、計15回)	月	18:00～19:30 19:40～21:10	4
歌唱法基礎A	専門教育	若井 健司 (教育学部)	4月15日～7月22日 (計15回)	木	16:20～17:50	6
民法入門	専門教育	齋藤 航 (法学部)	4月13日～7月27日 (計15回)	火	16:20～17:50	7
刑事法入門	専門教育	平野 美紀 (法学部)	4月12日～7月26日 (計15回)	月	16:20～17:50	8
政治学入門	専門教育	金子 太郎 (法学部)	4月9日～7月28日 (計15回)	金	16:20～17:50	9
法学入門(夜間主コース)	専門教育	新井 信之 (法学部)	4月13日～6月8日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	10
経営管理論	専門教育	松岡 久美 (経済学部)	4月13日～7月27日 (計15回)	火	16:20～17:50	11
経済学入門A(夜間主コース)	専門教育	星野 良明 (経済学部)	4月9日～6月4日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	12
経済学入門B(夜間主コース)	専門教育	横山 佳充 (経済学部)	6月11日～7月30日 (1日2回、計15回)	金	18:00～19:30 19:40～21:10	13
経済政策(夜間主コース)	専門教育	岡田 徹太郎 (経済学部)	4月13日～6月8日 (1日2回、計15回)	火	18:00～19:30 19:40～21:10	14
流通マーケティング論(夜間主コース)	専門教育	森貞 誠 (経済学部)	6月10日～7月29日 (1日2回、計15回)	木	18:00～19:30 19:40～21:10	15
(特)北アメリカ地誌(夜間主コース)	専門教育	高橋 昂輝 (経済学部)	4月14日～6月2日 (1日2回、計15回)	水	18:00～19:30 19:40～21:10	16

(注1) 香川大学の教育は、特定の専門分野に限定されない幅広い知識・能力を養う「**教養教育(全学共通科目)**」と、専門職業人を養成するための「**専門教育(学部開設科目)**」によって構成されています。
1年次の間は教養教育を中心に、2年次以降は専門教育を中心に学びます。

(注2) 授業スケジュール編成の都合上、一部の授業においては、通常とは異なる曜日に開講したり、休講になったりすることがあります。
詳細は、17～18ページの「2021年度行事予定表」をご参照ください。
(昼間と夜間主コースで授業スケジュールが異なります。お間違えのないようにお願いします。)

(注3) 新型コロナウイルス感染の状況により、一部の授業またはすべての授業が遠隔実施となる場合があります。
その場合はパソコンとインターネットの通信環境が必要となります。

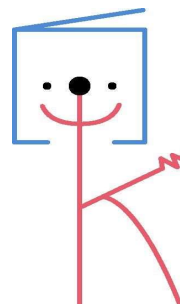
(注4) 初回授業の前にガイダンスを行います。
初回が対面授業の場合は、開始20分前に香川大学幸町北キャンパス学生会館2階(19ページ参照)にお越しください。
初回が遠隔授業の場合は、別途お知らせいたします。



大学の授業には、いろんな「**気づき**」があるよ。
その「**気づき**」を高校に持ち帰ってみよう。
高校の授業の見方も変わってくるはず！

大学生との交流も良い刺激になるよ！

【**第2学期の公開授業(予定)**】
・政治思想(専門/法学部)
・観光学概論(専門/経済学部)
このほか、教養教育も充実しています！
また、夏の数日だけで行う「**体験授業**」もあります。



授業科目名 学習環境の現在と未来 Learning environment	時間割 4月12日(月)～6月7日(月) 毎週月曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 笹屋 孝允	
学習時間 演習90分間×8回＋自学自習(準備事後合計30時間)	
授業の概要 現在・未来の学習環境の1つとなる、授業動画コンテンツを作成します。小中学校の教師になりきって、授業を行う数分間の動画を、グループで協働しながら作成、編集します。	
授業の目的 現在、教育のICT化が急速な勢いで進められています。一方、ICTのメリットを生かした、個別具体化の教育の必要性も叫ばれています。この授業では、授業動画の作成、編集を通して、ICTスキルだけでなく、教師としての授業スキルも習得することを目的にしています。	
到達目標	
・小中学校の教師としての授業スキルを習得する ・動画作成、編集を通して、ICTスキルを習得する(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・動画作成、編集を通して、グループで協働する態度を身につける(共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応) ・今後の教育の展望を持つことができる	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業計画】 (1)オリエンテーション (2)授業の組み方と動画編集方法の講義 (3)グループワーク① (4)グループワーク② (5)中間報告会 (6)グループワーク③ (7)グループワーク④ (8)最終報告会 【授業及び学習の方法】 ・グループワークが主体の授業です。 ・原則対面で行います。 【準備学習及び事後学習のためのアドバイス】 ・個々で課題が異なることが予想されるため、授業中に適宜指示します。	
教科書・参考書等 教科書等は特にありません。必要な資料は授業中に提示します。 ノートパソコン必携です。スマートフォン等も所持していれば活用します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ グループワークが主体のため、メンバーと協力しながら授業に参加できることが受講条件です。授業時間外にもグループワークを行う必要があることを理解した上で受講してください。	

授業科目名 現代暗号入門 Introduction to Modern Cryptography	時間割 4月15日(木)～6月3日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 堀川 洋	4月29日(木)は祝日ですが、授業があります。
学習時間 講義90分 × 7回 + 講義45分 × 1回 + 自学自習 (準備学習15時間+事後学習15時間)	
授業の概要 【キーワード】暗号、情報セキュリティ 高度情報化社会において情報セキュリティは必須の技術である。本授業では、コンピュータネットワーク・インターネットで使用されている暗号技術について学ぶ。2進数、論理演算、剰余演算などの数学の知識を必要とする。毎回演習問題を解くことによって理解を深める。	
授業の目的 授業計画に挙げた各項目：暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号について理解することを目的とする。	
到達目標 暗号の基礎、秘密鍵暗号、公開鍵暗号についての基礎的な問題が解けることを到達目標とする。(共通教育スタンダード「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。	
授業計画並びに授業及び学習の方法 【授業計画】 (1) 暗号の基礎 (2) 秘密鍵暗号(S-DES) (3) 秘密鍵暗号(DES) (4) 公開鍵暗号(RSA暗号) (5) 公開鍵暗号(ElGamal暗号) (6) ガロア体と楕円曲線 (7) 公開鍵暗号(楕円曲線暗号) (8) 授業のまとめ+試験 【授業及び学習の方法】 授業計画に挙げた内容について説明を行った後、演習問題を解いてもらう。そして、毎回それをレポートとして提出してもらう。各回で学んだ内容については自学自習によりきちんと整理し参考書などを参照して理解を深めること。 【自学自習のためのアドバイス】 (1) 暗号の基礎について調べてまとめる。 (2) 秘密鍵暗号(S-DES)について調べてまとめる。 (3) 秘密鍵暗号(DES)について調べてまとめる。 (4) 公開鍵暗号(RSA暗号)について調べてまとめる。 (5) 公開鍵暗号(ElGamal暗号)について調べてまとめる。 (6) ガロア体と楕円曲線について調べてまとめる。 (7) 公開鍵暗号(楕円曲線暗号)について調べてまとめる。 対面授業を行うか遠隔授業を行うかは現状では決定出来ない。学期開始時までに連絡する。	
教科書・参考書等 特に指定しない。 「暗号」、「情報セキュリティ」をキーワードとして検索してみると良い。図書館に数多くの参考書がある。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 特に無し。	

授業科目名 身近な製品の仕組みとものづくりの基礎 Mechanism in products and basic monozukuri	時間割 4月15日(木)～6月3日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計8回)
担当教員名 松田 伸也	4月29日(木)は祝日ですが、授業があります。
学習時間 授業90分×8回 + 自学自習 (準備学習 15時間 + 事後学習 15時間)	
授業の概要 私たちの身の回りには様々な製品や飛行機・自動車などの構造体など「もの」の仕組みと、これら「ものづくり」の一連の方法の基礎について概説します。まずはじめに、ユーザーが製品や構造体を使用するにあたって事故やトラブルが発生しないように製作・管理・メンテナンスをしなければいけないが、過去には多くのトラブル・事故が実在します。そのトラブル・事故事例について紹介します。次に、身近な製品・構造体の動作原理について説明し、「ものづくり」の一連の方法(材料の種類・選択、強度設計、測定、加工方法、組み立て・公差、品質管理と生産システム)について概説します。 【キーワード】 ものづくり	
授業の目的 私たちの生活・社会活動は、様々な材料を用いて製造された製品や構造体など「もの」を用いて行われています。今後、社会生活活動の維持および発展には「もの」の継続的な維持管理および進歩が要求されます。21世紀社会に求められている持続可能な「もの」の維持管理・進歩に貢献するために、これまでどのような「もの」がどのような原理で使われ、使用中に何が原因でトラブル・事故が起きたのか理解して考える力を身に付けます。その後、「ものづくり」の一連の方法について基礎を身に付け、新しい「ものづくり」に関する様々な課題に対してチャレンジできるようにします。	
到達目標	
以下に示す到達目標は、毎回の授業内容(授業計画)に対応しています。 (共通教育スタンダードの「21世紀社会の諸問題に対する探究能力」に対応) 1. 過去のトラブル・事故について説明できる。 2. 身近な製品・構造体の原理について説明できる。 3. 身近な製品・構造体に使用されている材料について、その理由と概要を説明できる。 4. 簡単な強度設計ができる。 5. 測定の原理を理解し、ノギスとマイクロメータが読める。 6. 工作機械による加工方法について説明できる。 7. 組み立てと公差について説明できる。 8. ものづくりの基本的な流れと品質管理・生産システムの概要について説明できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業計画】 第1回 「ものづくり」の流れの基本、過去の事故事例紹介と事故を起こさないためには？ 第2回 身近な製品・構造体(飛行機、自動車)の原理 第3回 様々な材料の特徴と用途 第4回 強度設計(材料力学の基礎～壊れないように形状を設計する) 第5回 測定の基礎知識、測定機の種類と特徴、測定を行う環境 第6回 機械加工方法 第7回 製品・構造体の組み立てと公差 第8回 品質管理と生産システム 【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めます。また各人にミニレポートを課し、講義で学んだ内容及び授業外で自ら学んだ内容の整理および実践的な理解を促します。 この科目は全回対面授業を行います。なお状況によっては、全てまたは一部の授業回の授業形態を遠隔へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 準備学習として、moodleに授業開始前までに、毎回の授業資料を公開します。授業資料をよく読み、理解に必要なキーワードや事項は授業開始までに理解に努めてください。	
教科書・参考書等 教科書は使用せず、moodle上で授業資料を公開・配布	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 毎回、出席確認を含むミニレポートを課します。	

授業科目名 創造工学の扉 Introduction to Engineering and Design	時間割 4月12日(月)～6月7日(月) 毎週月曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 石塚 正秀, 井藤 隆志, 國枝 孝之, 梶谷 義雄, 角道 弘文, 山中 稔, 八重樫 理人, 米谷 雄介, 小玉 崇宏, 佐藤 敬子, 若林 利明	学習時間 授業90分×15回+自学自習(準備学習30時間+事後学習30時間)
授業の概要 この授業は、工学に関する幅広い知識を修得することを目的としています。近年の工学分野は対象範囲が広がっており、具体的には、造形・メディアデザイン、防災・危機管理、建築・都市環境、情報システム・セキュリティ、情報通信、機械システム、先端マテリアル科学について講義します。各トピックについての基礎的な知識を学ぶのはもちろんのこと、その知識を活用して自分なりの解決策をまとめ、理解する力が身につくよう、レポート課題を通して、学びのさらなる定着を目指します。	
授業の目的 工学が社会にどのように活用されているのかを知ると共に、工学が提供する技術の恩恵と合わせて様々な諸課題を知り、現代社会や将来の社会の中に対する工学の役割を理解できるようになる。	
到達目標	
1. 工学分野について説明できる(共通教育スタンダード:「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 現代社会が抱える諸課題を概括できる(共通教育スタンダード:「21世紀社会の諸課題に対する探求能力」に対応)。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業計画】 第1回 ガイダンス、工学と水(石塚 正秀) 第2回 日本の水資源・水利用の特質(角道 弘文) 第3回 土・地盤とインフラや文化財とのかかわり(山中 稔) 第4回 工学とプロダクトデザイン((井藤 隆志) 第5回 地域課題解決とオープン・イノベーション(國枝 孝之) 第6回 自然災害の歴史と減災工学(梶谷 義雄) 第7回 情報技術が観光振興に果たす役割(八重樫 理人) 第8回 先端IT技術に基づく市民中心のまちづくり(米谷 雄介) 第9回 情報通信とデータ暗号(小玉 崇宏) 第10回 感覚・知覚・認知と工学技術(1):視覚(佐藤 敬子) 第11回 感覚・知覚・認知と工学技術(2):聴覚(佐藤 敬子) 第12回 感覚・知覚・認知と工学技術(3):感覚間相互作用(佐藤 敬子) 第13回 摩擦のコントロールとトライボロジー(若林 利明) 第14回 摩擦のコントロールの応用と潤滑技術(若林 利明) 第15回 環境に優しい潤滑技術(若林 利明) 【授業及び学習の方法】 授業は講義中心に進めます。授業中の課題やレポート等を通して、授業内容の理解を深める。 この科目はすべて遠隔授業を行います。 【自学自習のためのアドバイス】 第1回 身の回りにある水の存在を再認識し、自然・社会の中の水について考察する。(4時間) 第2回 異常渇水時に有効な節水行動について、家庭用水、都市活動用水、工業用水、農業用水ごとに考察する。(4時間) 第3回 土・地盤が形成するインフラや文化財について考察する(4時間) 第4回 暮らしの中で使われているプロダクトから工学とデザインの関係について考察する。(4時間) 第5回 地域課題を解決するためのオープン・イノベーションの考えに基づいた産学官連携について考察する。(4時間) 第6回 災害激甚化の人為的理由を理解し、工学の功罪と今後の役割について考察する。(4時間) 第7回 情報技術を用いた観光振興の取り組みを調査し、観光振興と情報技術の関係について考察する。(4時間) 第8回 IoT、ビッグデータ、AI、VR/AR、5Gなどの先端IT技術をまちづくりにどう活かすことができるのかを考察する(4時間) 第9回 情報通信における歴史的な暗号技術の原理を理解し、データ暗号化の知識を応用する。(4時間) 第10-12回 人間の知覚、情報の伝達、そして脳で行われている処理について、自身の経験や身の回りの例から考えてみるとともに、現在利用されているシステムやものにどのような技術として応用されているかを考える。(12時間) 第13-15回 摩擦という身近な現象を工学的に捉え、その基礎的な知識を学ぶとともに、マテリアル(材料)分野と関係の深い潤滑技術による摩擦のコントロールが環境に優しい社会の構築にどう活用されているかを考察する。(12時間)	

教科書・参考書等

教科書 : とくに定めない。

参考書等 : 授業中に適宜紹介します。

履修上の注意・担当教員からのメッセージ

難しい数式は極力使わずに、工学への興味を深められるよう、わかりやすい授業を行います。担当教員ごとに評価を行うので、各レポート等の提出を必ず行ってください。

担当教員のメールアドレス :

石塚 正秀 ishizuka.masahide@kagawa-u.ac.jp

角道 弘文 kakudo.hirofumi@kagawa-u.ac.jp

山中 稔 yamanaka.minoru@kagawa-u.ac.jp

井藤 隆志 ifuji.takashi@kagawa-u.ac.jp

國枝 孝之 kunieda.takayuki@kagawa-u.ac.jp

梶谷 義雄 kajitani.yoshio@kagawa-u.ac.jp

八重樫 理人 yaegashi.rihito@kagawa-u.ac.jp

米谷 雄介 kometani.yusuke@kagawa-u.ac.jp

小玉 崇宏 kodama.takahiro@kagawa-u.ac.jp

佐藤 敬子 sato.keiko@kagawa-u.ac.jp

若林 利明 wakabayashi.toshiaki@kagawa-u.ac.jp

授業科目名 歌唱法基礎 A Fundamentals of Vocal A	時間割 4月15日(木)～7月22日(木) 毎週木曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 若井 健司	4月29日(木)は祝日ですが、授業があります。 7月22日(木)の祝日は、授業日ですが、都合により休講です。
学習時間 講義・演習・実技×15回+自学実習	
授業の概要 歌唱指導に必要な正しい発声の基礎を理解し、各自の自然な声を見い出させるために、声を使った多種多様な表現を実践する。日本語の発音を再認識し、美しい母音が必要な基礎的イタリア歌曲を中心に歌唱体験を進めていく。 さらに教材として、身近な郷土に伝わる日本民謡・わらべうた等を取り上げ、日本古来の旋法になじませながら、その歌唱表現についての実践研究を行う。	
授業の目的 ①初等教育に必要な声を使った表現、歌唱指導に必要な基礎的発声・歌唱技術を習得する。 ②身近な環境から生まれ、伝わってきた日本古来からの歌を再認識し、伝統的な音楽の歌唱表現を学ぶ。 ③言葉による表現を多彩に使用できるようにし、声を使ったコミュニケーション術を学ぶ。	
到達目標	
1, 初等教育の教師として、必要な声量を身につけるようにしよう。 2, 歌唱教材を自信を持って歌唱できるようにしよう。 3, 伝統的な音楽の唱法を身につけよう。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
実技練習を加えた演習形式 (1)オリエンテーション (2)言葉と音楽の結合① (3)言葉と音楽の結合② (4)呼吸法① (5)呼吸法② (6)朗読劇① (7)朗読劇② (8)朗読劇③ (9)歌唱の実践① (10)歌唱の実践② (11)歌唱の実践③ (12)イタリア歌曲の実践① (13)イタリア歌曲の実践② (14)イタリア歌曲の実践③ (15)授業のまとめ (16)定期試験	
教科書・参考書等 テキストをこちらで用意します。 必要に応じて、指示する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ AとBは、必ず同一年度に連続して履修すること。2年生及び1年生履修可能	

授業科目名 民法入門 An Introduction to Civil Law	時間割 4月13日(火)～7月27日(火) 毎週火曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 齋藤 航	
学習時間 講義90分×15回+自習(準備学習30時間+事後学習30時間)	
授業の概要 この授業では、民法の概要、および民法の中でも最も基本的かつ重要な条文や概念、判例について扱う。 民法は日本における社会経済活動の最も基本となる法律である。商法、会社法や労働法など他の民事法も、民法で定められたルールを前提としており、民法は法律全体を学ぶうえでの出発点となる法律である。 民法は大きく財産法と家族法に分けられる。財産法では私人が物や人に対して有する権利(物権、債権)に関するルールが、家族法では夫婦や親子間の関係や相続に関するルールが定められている。 授業では、上記を踏まえ、以下のような構成で行う。 第一に、民法の全体像を把握するために、民法の概要を説明する(第1回～第2回)。 第二に、債権の主要な発生原因である契約に着目し、債権に関する民法のルールを説明する。その際は、まず契約に関する基本的なケースを扱い(第3回～第6回)、次に応用的なケースについて扱う(第7回～第9回)。また、契約とならば債権の発生原因である不法行為についても扱う(第10回)。 第三に、物権に関するルールを説明する(第11回～第12回)。 最後に、家族法に関するルールを説明する(第13回～第15回)。	
授業の目的 この授業では、民法の全体像の把握、および民法上最も重要な知識の習得を目的とする。加えて、より専門的な内容を扱う民法I～IV、および商法等その他の民事法科目を学ぶ際に理解が深まるような、法律学全般の導入的授業となることも目的とする。	
到達目標	
①民法における基本的な条文や概念、判例の内容について理解し、説明することができる ②簡単な事例問題に対して、民法を適用して解決することができる	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
第1回 民法の概要 (1) 民法の役割 第2回 民法の概要 (2) 私的自治の原則・民事紛争の解決手段 第3回 契約 基本編 (1) 契約による債権の発生 第4回 契約 基本編 (2) 契約違反に対する救済 第5回 契約 基本編 (3) 債権の消滅原因 第6回 契約 基本編 (4) 履行を確保するための手段 第7回 契約 応用編 (1) 契約の無効・取消 第8回 契約 応用編 (2) 特殊な契約主体 第9回 契約 応用編 (3) 代理による契約 第10回 不法行為 第11回 物権の意義 第12回 物権変動 第13回 親族 (1) 婚姻・離婚 第14回 親族 (2) 親子 第15回 相続	
教科書・参考書等 教科書は指定しない。レジュメを配布する。 参考書等は初回授業で紹介する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 必ず紙の六法(令和3年版ポケット六法、デイリー六法など)を持参してください。	

授業科目名 刑事法入門 Introduction to Criminal Law, Criminal Procedure Law, Criminal Policy and Victimology	時間割 4月12日(月)～7月26日(月) 毎週月曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 平野 美紀	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 30時間 + 事後学習 30時間)	
授業の概要 毎日たくさんの犯罪事件が報道されています。みなさんの周囲にももしかすると犯罪事件が起きているかもしれません。また裁判員制度も開始され、犯罪事件や裁判をより身近に感じ、そして刑事司法に変革が求められる時代です。この授業では、2年次以降に学ぶ刑法総論・各論・刑事訴訟法の枠組みを作る基礎的な知識を身につけたうえで、2年次以降では扱われることが少ない犯罪者の処遇や社会復帰、被害者にかかわる法制度を中心に学びます。具体的には、法務省が現在力を入れている再犯防止対策や、刑務所等での処遇に関して定める刑事施設収容法、仮釈放で刑務所出所した後の保護観察制度等を定める更生保護法、20歳未満の少年が犯罪行為等を行った場合に関する少年法、犯罪被害者の権利や関連する法制度とその運用です。また、近年問題になっている、家庭内における犯罪としての児童虐待やDVの防止、精神障害を有する者が重大事件を行った場合の処遇制度についても学びます。	
授業の目的 次の4点を目標とします ①刑事法にかかわる法律の基礎を習得する。 ②刑事司法の仕組みを理解する。 ③犯罪者処遇や被害者支援の法制度を学ぶ。 ④現代社会における刑事司法の課題について関心を深める。	
到達目標 ①刑事法にかかわる法律と刑事司法の仕組みについて、説明できる。 ②犯罪者処遇や被害者支援の法制度について、説明できる。 ③現代社会における刑事司法の課題について自分の考えを説明できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法 【遠隔授業】を基本とし、教科書・レジュメに基づいた講義形式で行います。 ゲストスピーカーによる講義も予定していますが、ゲストスピーカーの日程調整のため、順序は変更の可能性があります。 (1) ガイダンス：刑事法とはなにか、刑事司法の仕組み (2) 犯罪と刑罰について その1：現代日本の犯罪現象と再犯防止 (3) 犯罪と刑罰について その2：刑法の存在意義 (4) 犯罪と刑罰について その3：刑罰の種類 (5) 犯罪論の基礎（構成要件・違法性・責任）その1：犯罪の成立要件 (6) 犯罪論の基礎（構成要件・違法性・責任）その2：構成要件と違法性阻却事由 (7) 犯罪論の基礎（構成要件・違法性・責任）その3：責任能力。これまでのまとめ。 (8) 【小テスト範囲は(1)～(7)】 (9) 小テスト解説。加害者の処遇と被害者支援 (10) 被害者支援制度 (11) 講演会：犯罪被害者の方による犯罪被害者支援について【課題レポート①対象】 (12) 刑務所での処遇と社会内処遇（保護観察など） (13) 講演会：受刑者の処遇に関して【課題レポート②対象】 (14) 成人犯罪者以外（少年と触法精神障害者）の処遇 (15) レポート講評、まとめ	
教科書・参考書等 教科書：井田良『基礎から学ぶ刑事法（第6版）』有斐閣アルマ 参考書：『法律学小辞典（第4版補正版）』（有斐閣）	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 日ごろから、新聞等で報道されている犯罪事件や刑事裁判について関心をもってもらいたいと思います。	

授業科目名 政治学入門 Introduction to Political Economy and History	時間割 4月9日(金)～7月28日(金) 毎週金曜日 16時20分～17時50分(計15回) ただし、5月7日(金)は振替授業で水曜日の授業になりますので、授業はありません。7月21日(水)は振替授業で金曜日の授業になりますので、授業があります。
担当教員名 金子 太郎	
学習時間 講義90分×15回+自学自習(相当の読書量を必要とする)	
授業の概要 現在の日本では様々な自由(信教の自由、思想・信条の自由、報道の自由などなど)が認められていて、不正なく普通選挙が行われています。この2つの条件を満たしている国を「自由民主主義(リベラル・デモクラシー)」の国と言います。また、現在の日本は経済活動においては市場経済を基本に経済運営を行っている資本主義体制の国です。自由民主主義や資本主義は皆さんにとっては空気のように「あって当たり前のもの」かもしれませんが、歴史的、地理的な広がりを持って世界史を見てみると、全然そうではありません。どういう歴史的経緯で人類がこれらの政治制度、経済体制を持つようになったかを知ることは非常に重要です。 この講義では、近代市民革命(イギリスのピューリタン革命・名誉革命、アメリカ独立革命、フランス革命)の時代から人類がどのような歴史の経緯を経て、これらの政治制度、経済体制を得ていったかを考えてみましょう。 同時に地理的にも広く現在の世界を見てみましょう。世界には自由民主主義、資本主義の国はどれくらいあるでしょう?意外と少ないことに気がつくはずです。 皆さんが歴史的かつ地理的に視野を広げて政治、経済、歴史、国際政治の問題を考察する視野を持てるようになることがこの講義の目標です。 そういう視野を持って、現在の日本が直面している問題についても考えてみましょう。	
授業の目的 ①歴史的かつ地理的に視野を広げて、政治、経済、歴史・国際政治の問題を考察できるようになること。 ②読書の面白さを感じて欲しい。	
到達目標 ①歴史的かつ地理的に視野を広げて、政治、経済、歴史・国際政治の問題をとらえられるようになること。 ②読書の習慣を始めること。	
授業計画並びに授業及び学習の方法 第1回 近代以前の統治(強者の支配)と近代市民革命 第2回 19世紀 自由主義 第3回 19世紀 資本主義経済の発展、帝国主義、社会主義、共産主義、ナショナリズム 第4回 つづき 第5回 つづき 第6回 20世紀 戦争と革命の世紀 第7回 第1次世界大戦 第8回 つづき 第9回 戦間期 第10回 つづき 第11回 第2次世界大戦 第12回 日中戦争、アジア・太平洋戦争 第13回 つづき 第14回 つづき 第15回 まとめ 講義中にかなりの数の課題図書を指定するので、読んで欲しい。大学の勉強は「講義を聴いて試験でそれを答案に書けばいい」という受動的なものだけではない。自ら読書をする習慣を大学1年生の前期から身に付けて欲しい。また、読書が結構面白いものだという事を感じて欲しい。	
教科書・参考書等 半藤一利『昭和史 1926-1945』(平凡社文庫)は講義中にも読むので必ず購入すること。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 試験は課題図書を持ち込み可にする予定だが、事前によく読んで、どこに何が書いてあったかを覚えておかないと解けない問題が出るので、3ヶ月半ほどで課題図書をよく読んでおいて欲しい。読書計画を自分で立てて実行して下さい。	

授業科目名 法学入門(夜間主) 生命と法 Life and Law	時間割 4月13日(火)～6月8日(火) 毎週火曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 新井 信之	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 本講義は、「生命と法」を主たるテーマとして、法とは何かについて考えていきます。法学の勉強は、法とは何かに始まり、法とは何かに終わるといわれます。そのため、人の生命にかかわる「人間人格の尊厳」を至上の価値とする日本国憲法における議論を基本として、教科書や視聴覚教材等を活用して授業を進めていきます。	
授業の目的 本講義は、法を学ぶための基礎的な入門科目として、受講者が自ら問題を発見し、解決のための法的思考方法を習得することを目的とします。それとともに、人の生命と「人間人格の尊厳」を法的な視点から考える知識と判断能力を醸成していきます。	
到達目標	
1. 法的な問題を自ら発見し、解決するための思考方法(リーガル・マインド)を習得することができる。 2. 生命と法について、日本国憲法における議論の内容を理解し、自らの意見を持つことができる。 3. 生命の尊厳にかかわる現代社会の問題を幅広くリテラシー(読み解く)することができる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業の方法】本講義は、現代社会における生命と法についての諸問題について、どのような法的ルールが適用されてその解決が図られようとしているかを検討するために、ビデオ教材等を積極的に活用するメディア・リテラシーの教育手法をとりいれて、「人間人格の尊厳」と法のあり方にたいする認識能力を高めていく。そのため授業は、e-learningの習得と教育効果の向上を念頭に置きながらすべてリアルタイムのオンライン(遠隔授業)で実施します。 【授業計画】 第1回 法とは何か(1) 第2回 法とは何か(2) 第3回 個人の尊厳と日本国憲法の基本構造(1) 第4回 個人の尊厳と日本国憲法の基本構造(2) 第5回 幸福追求権としての自己決定権(1) 第6回 幸福追求権としての自己決定権(2) 第7回 幸福追求権としての自己決定権(3) 第8回 女性の権利と胎児の人権(1) 第9回 女性の権利と胎児の人権(2) 第10回 女性の権利と胎児の人権(3) 第11回 死ぬ権利(1) 第12回 死ぬ権利(2) 第13回 死ぬ権利(3) 第14回 死刑制度の合憲性(1) 第15回 死刑制度の合憲性(2)	
【自学自習に関するアドバイス】 1. 毎回授業についてメールで事前に案内を送信するので、そこで示される課題を教科書等を参考にして自らの考えをまとめて次回の授業に臨むこと(予習)。 2. 授業についての受講生からの質問や意見等を授業の初めに紹介するので、そこでの議論に参加できるよう前回までの授業内容を把握しておくこと(復習)。 3. 自らが授業で発見した法的問題について、自由研究レポートを作成・提出してもよい。 4. 裁判所見学(裁判の傍聴)等を各自で実施し、その内容をまとめて自由研究レポートとして提出してもよい。	
教科書・参考書等	
新井信之著『日本国憲法から考える現代社会・15講—グローバル時代の平和憲法』(有信堂、2015年)	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 法学の勉強は、法とは何かに始まって、法とは何かに終わります。授業は、単なる知識の伝達ではなく、自ら考え、自ら答えを導いていける場になるよう学生諸君の積極的な参加を求めます。また、授業はzoomを使用してすべてリアルタイムのオンライン(遠隔授業)で実施するので、スムーズに受講が出来るよう大学のガイダンス等に従って事前にwifi環境を整えておいてください。	

授業科目名 経営管理論 Management and Administration	時間割 4月13日(火)～7月27日(火) 毎週火曜日 16時20分～17時50分(計15回)
担当教員名 松岡 久美	
学習時間 講義90分×15回＋自学自習(準備学習30時間＋事後学習30時間)	
授業の概要 本講義は、初めて経営学を学ぶ学生を対象として、企業経営の全体像は何か、経営学の全体像は何か、経営学を学ぶ意義は何か、経営学をどのように勉強すればよいか、などを説明する導入科目である。経営学各分野の諸理論と企業経営の実例を紹介しながら、経営学の概要を分かりやすく講義したい。	
授業の目的 経営学と企業経営の全体像を理解してもらうのが本授業の目的である。	
到達目標	
1. 企業と経営の仕組みについて自分の言葉で語ることができる(学士課程のDP「広範な人文・社会・自然に関する知識」に対応)。 2. 企業経営の実際を考察する際に必要な基本的な考え方を身に付ける(学士課程のDP「問題解決・課題探求能力/21世紀社会の諸課題に対する探求能力」)。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
授業は基本的にパワーポイントを使った講義形式で進める。また、ビデオなどの視聴覚教材も適宜使用する。受講生は日頃から『日本経済新聞』や『日経ビジネス』『週刊ダイヤモンド』などのビジネス雑誌に目を通し、企業の経営動向について観察する習慣を付けてください。 第1回 インTRODakション 第2回 企業経営の全体像 第3回 経営学の全体像 第4回 企業と会社 第5回 企業とインプット市場との関わり 第6回 企業とアウトプット市場との関わり 第7回 競争戦略のマネジメント① 第8回 競争戦略のマネジメント② 第9回 多角化戦略のマネジメント 第10回 国際化のマネジメント 第11回 マクロ組織のマネジメント 第12回 ミクロ組織のマネジメント 第13回 キャリアデザイン 第14回 経営学の広がり① 第15回 経営学の広がり② *進捗状況などに応じて、授業計画を変更する場合がある。 【自学自習に関するアドバイス】 講義前・講義後には、テキストの関連内容について予習・復習をしてください。 *この科目は基本的に対面授業を行います。なお状況によっては授業形態を全て対面または遠隔へ変更する可能性があります。	
教科書・参考書等 加護野忠男・吉村典久(2012)『1からの経営学(第2版)』碩学舎。2,400円＋税 (教科書は、受講生が各自で入手すること。)	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中の私語と携帯電話の使用を慎むこと。	

授業科目名 経済学入門A Introduction to Economics A	時間割 4月9日(金)～6月4日(金) 毎週金曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) ただし、5月7日(金)は振替授業で水曜日の授業になりますので、授業はありません。																
担当教員名 星野 良明																	
学習時間 授業90分×15回＋自学自習(準備時間15時間＋事後学習45時間)																	
授業の概要 はじめて経済学を学ぶ学生を対象として、ミクロ経済学の基本的な考え方を解説します。 ミクロ経済学とマクロ経済学は経済学で様々な問題を分析する際の最も基本的な考え方です。マクロ経済学が一国の景気や失業率など経済全体の活動に注目するのに対し、ミクロ経済学では、経済を構成する個々の企業や家計の行動に注目します。そして個々の行動(最適化)と相互関係(均衡)を考慮して、モノやサービスの市場や産業、さらには経済全体を分析します。																	
授業の目的 市場経済において、個々の企業や家計がどのように経済活動を行うか、また、企業や家計の経済活動にいかなる相互依存関係があり、それが資源配分にどのような影響をもたらすかを、ミクロ経済学的手法により理解します。																	
到達目標																	
1. 完全競争市場における価格と数量が需要と供給の均衡によって決定されることを、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。 2. ミクロ経済学の観点から、家計の消費行動や企業の生産活動が市場価格にどのように反応するか説明できる。 3. 市場均衡が持つ資源配分のメカニズムと性質を、部分均衡の枠組みを用いて説明できる。																	
授業計画並びに授業及び学習の方法																	
【授業計画】進行状況により、若干の変更をする可能性があります。 <table border="0"> <tr> <td>第1回 ガイダンス、需要と供給(1)</td> <td>第2回 需要と供給(2)</td> </tr> <tr> <td>第3回 需要と供給(3)</td> <td>第4回 消費者行動と需要曲線(1)</td> </tr> <tr> <td>第5回 消費者行動と需要曲線(2)</td> <td>第6回 消費者行動と需要曲線(3)</td> </tr> <tr> <td>第7回 企業行動と供給曲線(1)</td> <td>第8回 企業行動と供給曲線(2)</td> </tr> <tr> <td>第9回 企業行動と供給曲線(3)</td> <td>第10回 市場取引と資源配分(1)</td> </tr> <tr> <td>第11回 市場取引と資源配分(2)</td> <td>第12回 独占の理論(1)</td> </tr> <tr> <td>第13回 独占の理論(2)</td> <td>第14回 ゲームの理論(1)</td> </tr> <tr> <td>第15回 ゲームの理論(2)、まとめ</td> <td></td> </tr> </table> 【授業及び学習の方法】 授業は講義形式で行います。理解度確認のためのクイズに答える時間を設けます。この科目は全回遠隔授業を行います。なお状況によっては一部の授業回の授業形態を対面へ変更する可能性があります。 【自学自習のためのアドバイス】 ・受講講生は復習を重視した自学自習を行ってください。授業内容は連続しているので、授業前には前回の内容を再確認してください(15時間)。授業後には講義中に示す問題や宿題に取り組み、計算や作図を自分の手で行い、自分の理解を確認してください(30時間)。 講義内容は積み上げ式で進むので、わからない点があったらすぐに解決することが大切です。 ・経済学的な考え方の習得には、単に授業内容を学習するのみでなく、ニュースや身の回りの経済問題に関心を持ち、授業内容との関連性を考える、つまり理論と現実の世界との往復思考を行う姿勢が不可欠です。(15時間)		第1回 ガイダンス、需要と供給(1)	第2回 需要と供給(2)	第3回 需要と供給(3)	第4回 消費者行動と需要曲線(1)	第5回 消費者行動と需要曲線(2)	第6回 消費者行動と需要曲線(3)	第7回 企業行動と供給曲線(1)	第8回 企業行動と供給曲線(2)	第9回 企業行動と供給曲線(3)	第10回 市場取引と資源配分(1)	第11回 市場取引と資源配分(2)	第12回 独占の理論(1)	第13回 独占の理論(2)	第14回 ゲームの理論(1)	第15回 ゲームの理論(2)、まとめ	
第1回 ガイダンス、需要と供給(1)	第2回 需要と供給(2)																
第3回 需要と供給(3)	第4回 消費者行動と需要曲線(1)																
第5回 消費者行動と需要曲線(2)	第6回 消費者行動と需要曲線(3)																
第7回 企業行動と供給曲線(1)	第8回 企業行動と供給曲線(2)																
第9回 企業行動と供給曲線(3)	第10回 市場取引と資源配分(1)																
第11回 市場取引と資源配分(2)	第12回 独占の理論(1)																
第13回 独占の理論(2)	第14回 ゲームの理論(1)																
第15回 ゲームの理論(2)、まとめ																	
教科書・参考書等 【教科書】指定しません。授業資料を配付します。 【参考書】その他は講義初回で紹介します。 伊藤元重(2003)『ミクロ経済学』第2版、日本評論社。 佐々木宏夫(2008)『基礎コース ミクロ経済学』新世社。 八田達夫(2013)『ミクロ経済学 Expressway』東洋経済新報社。																	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中の私語は厳禁。スマホなど当面の授業と関係のない持ち物は机の上に置かないこと。																	

授業科目名 経済学入門B Introduction to Economics B	時間割 6月11日(金)～7月30日(金) 毎週金曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 横山 佳充	ただし、7月21日(水)は振替授業で金曜日の授業になりますので、授業があります。
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習	
授業の概要 基本的に1年次を対象に経済学入門の講義を行います。本来経済学においてはミクロ的視点とマクロ的視点から見た経済学があります。ミクロ的な視点から見た経済学はミクロ経済学といい、個別の経済主体の最適行動や他の経済主体との関係を分析する学問です。一方マクロ面から経済を分析するマクロ経済学は、インフレーション、国内総生産など、一国の経済活動全般を分析します。 もちろん、ミクロ的な視点もマクロ的な視点も大切ではありますが、本講義ではマクロ的な視点に基づいた経済を基礎に解説を行います。マクロ的な視点の方が経済ニュースなど周囲にあふれている経済問題に親近性があります。マクロ的な視点を習得することで、ニュースに登場する基本的な用語や考え方を学ぶことが目的です。本講義ではマクロ経済学の理論的な側面ではなく身近に登場する経済用語を中心に解説します。	
授業の目的 本科目は総合経済コースにおける「基礎科目」です。 本講義では「経済学入門A」と合わせて経済学の基礎部分を解説します。 この講義の内容の理解により、身近に出現する経済用語を理解することができます。	
到達目標	
経済ニュースに登場する基本的な用語、概念を理解できる。 実際の経済の実態が把握できる。 実際の経済状況に関する問題点を指摘できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
以下のテーマを予定している。 第1回から第3回・・・第1章 経済の基本 -最低限知っておきたい経済用語の常識 経済の成り立ちやマクロ経済とミクロ経済 などについて 第4回から第6回・・・第2章 経済とそのメカニズム -景気を左右する重点項目 経済指標GDP などについて 第7回から第9回・・・第3章 日本経済とその問題点 -直面している日本経済の大きな問題 日本バブル(発生)や日本バブル(膨張) などについて 第10回から第12回・・・第4章 日本経済と世界経済の関係世界 -世界の視点からみた日本経済の姿 為替レートや円高と円安 などについて 第13回から第15回・・・第5章 日本経済を襲う諸問題 -未来の日本経済の姿を明確にとらえる 以上、予定のため、進行が計画通りに進まない場合もある。	
教科書・参考書等 『面白いほどよくわかる最新経済のしくみ(改訂版)』、神樹 兵輔(著)、日本文芸社	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ 授業中は授業に集中してください。問題がある場合退席していただくことがあります。特に携帯電話・スマホ等必要なものを机の上に置くことや触ることはやめましょう。即刻単位が出ないことも含めて、厳正に対応します。	

授業科目名 経済政策 Economic Policy	時間割 4月13日(火)～6月8日(火) 毎週火曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
担当教員名 岡田 徹太郎	
学習時間 講義90分 × 15回 + 自学自習(準備学習 15時間 + 事後学習 45時間)	
授業の概要 経済政策の基本的な枠組みについて解説する。 受講者は、本講義と並行して、政府や国会、日本銀行などで、どのような政策の発動が議論されているか、ニュースに注意を払うことが望ましい。 アクティブ・ラーニング型授業を導入する。授業内容への深い理解に結び付けるためのグループ・ワーク*を行う。 なお、グループ・ワークを苦手とする者は、個人ワークも認めるので、初回の講義前に申し出ること。	
授業の目的 経済政策の基礎を理解することを目的とし、さまざまな疑問に対する回答を、自ら導き出せるようにする。	
到達目標	
1. 経済政策の基礎について説明できる。 2. 政府の役割や機能について説明できる。 3. 経済政策の課題について説明できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
・授業計画 板書筆記・口述筆記による。 (1) 経済学と経済政策 (2) 経済学とは何か (3) 経済政策とは何か (4) 経済政策を理解するためのキーワード(国民経済計算) (5) 経済政策を理解するためのキーワード(雇用統計) (6) 政府を概観する (7) 政府の役割 (8) 市場の失敗 (9) 政府の失敗 (10) 政府の課題 (11) 日本経済をめぐる課題 (12) 長期不況とデフレ経済 (13) 長期不況からの脱出 (14) 経済政策をめぐる諸問題 (15) 新時代の経済政策 ・自学自習に関するアドバイス 講義毎に、指定教科書の該当範囲を指定するので、講義前に教科書を熟読し、予習をすること。加えて、講義後にレポートを課すので、講義内容を振り返り、復習し、まとめ・疑問・感想などを取りまとめて提出すること。	
教科書・参考書等	
・教科書 『ゼロからはじめる経済入門』有斐閣コンパクト、2019年、2300円。講義室への持参は求めないが、講義内容は教科書に沿って進めるので、事前に熟読し予習に用いること。なお、期末試験問題の素材としても利用する。 ・参考書 経済辞典として、金森久雄・荒憲治郎・森口親司編『有斐閣 経済辞典』第5版、4200円、を指定する。この科目だけではなく、全ての経済学・経営学の科目に適合する学修用。経済学部生の必携辞書と考えた方がよい。 一般的な参考書として、田代洋一・萩原伸次郎・金沢史男編『現代の経済政策(第4版)』有斐閣ブックス、2011年、2900円、を推薦する。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
アクティブ・ラーニング型授業で学修する。授業への積極的な関わりを期待している。出席は必須。止むを得ず欠席した場合は、必ず自学自修で追いつくことを旨とし、放置しないこと。	

授業科目名 流通マーケティング論 Distribution and Marketing	時間割 6月10日(木)～7月29日(木) 毎週木曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回) 7月22日(木)は祝日ですが、授業があります。
担当教員名 森貞 誠	
学習時間 授業90分 × 15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)	
授業の概要 本講義において、マーケティング論の基礎を学習していきます。企業は、消費者に製品・サービスを買ってもらうために、様々な工夫を凝らしています。こうした工夫をマーケティングといい、企業活動においてマーケティング論の理解は不可欠になっています。 本講義では、4つのP(Product, Price, Promotion, Place)を中心に、講義・グループワークなどを通してマーケティング論の理解を深めます。	
授業の目的 ・マーケティングの基礎事項を理解することで、モノが売れる仕組みを理解すること	
到達目標	
・マーケティングの基本的な事項を理解すること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応) ・マーケティングの観点から、企業の戦略を分析できるようになること(DPの知識・理解, 問題解決・課題探求能力に対応)	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業計画】 第1回 インTRODakション 第2回 マーケティングとは？ 第3回 企業の競争とSTP① 第4回 企業の競争とSTP② 第5回 製品戦略① 第6回 製品戦略② 第7回 プロモーション戦略① 第8回 プロモーション戦略② 第9回 価格戦略① 第10回 価格戦略② 第11回 流通戦略① 第12回 流通戦略② 第13回 顧客関係管理 第14回 マーケティング戦略 第15回 まとめ 【講義及び学習の方法】 授業は原則、講義形式で進めますが、moodleやグループワークなどを用いた演習も取り入れます。また、数回の講義ごとに小レポートを課し、講義内容の理解を促します。 【自学自習のアドバイス】 講義ごとに、該当する講義内容を復習する。(15時間) 講義ごとに、マーケティング戦略の観点から企業分析をおこなう。(15時間) 小レポートの作成。(10時間) 中間レポートの作成。(10時間) 期末レポートの作成。(10時間)	
教科書・参考書等 【教科書】 特に指定しません。講義資料に基づいて講義を進めていきます。 【参考書】 講義中に紹介します。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ ・私語は厳禁です。	

授業科目名	時間割
(特) 北アメリカ地誌 Special Lecture	4月14日(水)～6月2日(水)
担当教員名 高橋 昂輝	毎週水曜日 18時00分～19時30分 19時40分～21時10分(1日2回、計15回)
学習時間 講義90分×15回 + 自学自習 (準備学習30時間+事後学習30時間)	
授業の概要	
地理学は、大きく系統地理学と地誌学の二つに分けられ、系統地理学は、さらに人文地理学と自然地理学に分岐する。現代地理学における主要三分野は、人文地理学、自然地理学、および地誌学である。本科目では、このうち地誌学を扱う。 地誌学は、特定の地域を対象とし、多角的な情報をもとに総体的な地域像を描き出すことを目的とする。この科目では、今日、アメリカ合衆国とカナダの二カ国が位置する北アメリカ地域を取り上げ、比較交流地誌、テーマ重視地誌、広域動態地誌の手法を併用し、講義を進める。	
授業の目的	
本科目の目的は、自然科学・人文科学・社会科学の複合領域として、地理学が有する多彩な知見に基づき、北アメリカ地域を多面的に理解することである（DP：地域理解、知識・理解、問題解決・課題探求能力に対応）。また、アメリカ・カナダという二つの国家の共通点と相違点について学習し、関係論的かつ巨視的な視座から北アメリカ地域を理解することもねらいとする。	
到達目標	
1. 北アメリカの自然環境・人文環境・社会環境を理解し、他者にわかりやすく説明できる。 2. 北アメリカが有する課題や問題を理解し、他者にわかりやすく説明できる。 3. アメリカとカナダの共通点と相違点の両面を理解し、他者にわかりやすく説明できる。	
授業計画並びに授業及び学習の方法	
【授業計画】 ▷ はじめに 初 回：導入 第2回：北アメリカの自然環境 ▷ 先住民世界から二つの国家の成立まで 第3回：先住民の世界 第4回：ヨーロッパ文化圏の拡大 第5回：西漸運動と大陸国家の建設 第6回：米加国境線の画定と旧フランス系入植地 ▷ 北アメリカの土地と都市 第7回：土地区画とタウンシップ・レンジ方式 第8回：米国西部スペイン系都市の分布と構造 第9回：都市計画と都市の街区政策 ▷ 北アメリカの政治と社会 第10回：米加両国の政治体制と選挙制度 第11回：黒人奴隷制とレイシズムへの異議申立 第12回：ケベック地域主義と主権獲得運動 ▷ 北アメリカの資源と産業 第13回：非在来型化石燃料とパイプラインの敷設 第14回：自由貿易協定と産業構造の変遷 ▷ おわりに 第15回：総括 ※ 授業の内容と順番は、一部変更される場合がある。 ※ シラバス作成時点において、オンライン形式での授業を予定しているが、感染症の流行状況などに応じ、授業の実施形式を変更する場合がある。 【自学自習】 ・授業内において、適宜文献を紹介する。授業外の時間をつかって、紹介された文献の学習に努めること。 ・新聞、テレビ、インターネット等で、アメリカ合衆国とカナダに関連するニュースに目を通すこと。	
教科書・参考書等	
■ 教科書 指定しない。適宜プリントを配布するほか、地図帳を使用する。 ■ 参考書 田林 明編（2020）『カナダにおける都市-農村共生システム』農林統計出版。 矢ヶ崎典隆編（2011）『世界地誌シリーズ4 アメリカ』朝倉書店。 矢ヶ崎典隆編（2018）『移民社会アメリカの記憶と継承：移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ』学文社。 矢ヶ崎典隆ほか編（2020）『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論 第2版』朝倉書店。	
履修上の注意・担当教員からのメッセージ	
授業内外で課題を出します。受動的に授業を聴くだけでなく、考える力・書く力を身につけることを意識して受講してください。	

令和3年度行事予定表（昼間）

第1学期

	日	月	火	水	木	金	土
4月					1 第1学期開始	2	3 入学式・カインズ (毎年4/3)
					第1学期・第1クォーター履修登録期間 4/1～4/7 13時まで		
4	5 新入生ガイダンス	6 新入生修学相談会	7 新入生修学相談会 新入外国人留学生ガイダンス	8 定期健康診断 新入生修学相談会 新入生歓迎祭	9 授業開始(第1学期・第1クォーター)	10	
	第1学期・第1クォーター履修登録期間(但しR3年度新入生は4/3～4/7 13時まで (抽選))			履修登録予備日			
11	12	13	14	15	16	17	
18	19	20	21	22	23	24	
	履修登録取消申請期間						
25	26	27	28	29 授業日(木)	30	1	
5月	2	3	4	5	6	7 振替授業(木)	8
9	10	11	12	13	14	15	
16	17	18	19	20	21	22	
23	24	25	26	27	28	29	
	第2クォーター履修登録期間 5/26～5/31 13時まで			授業予備日(注)			
6月	30	31	1	2	3	4	5
		(抽選)	履修登録予備日				
6	7	8	9 授業開始(第2クォーター)	10	11	12	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24	25	26	
	履修登録取消申請期間						
7月	27	28	29	30	1	2	3
4	5	6	7	8	9	10	
						授業予備日(注)	
11	12	13	14	15	16	17	
						授業予備日(注)	
18	19	20	21 振替授業(金)	22 授業日(木)	23	24	
25	26	27	28	29	30	31	
8月	1	2	3	4	5 オープンキャンパス (看護学科)	6 夏季休業～9/30 オープンキャンパス	7
	第1学期定期試験期間			授業・定期試験予備日			
8	9	10	11	12	13	14	
	授業・定期試験予備日			教職員夏季一斉休業			
15	16	17	18	19	20	21	
22	23	24	25	26	27	28	
9月	29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	19	
	第2学期・第3クォーター履修登録期間			23	24	25	
19	20	21	22	23	24	25	
	9/16～22 13時まで (抽選)			履修登録予備日			
26	27	28	29	30 第1学期終了			

第2学期

	日	月	火	水	木	金	土
10月						1 第2学期開始 大学記念日	2 新入外国人留学生 ガイダンス
3	4 授業開始(第2学期・第3クォーター)	5	6	7	8	9	
	履修登録期間(ただし、令和3年度10月入学者のみ対象)						
10	11	12	13	14	15	16	
	履修登録取消申請期間						
17	18	19	20	21	22	23	
24	25	26 振替授業(金)	27	28	29 前夜祭 (臨時休業)	30	
						大 学 祭	
11月	31	1 大学祭撤収日 (臨時休業)	2	3	4	5	6
	大学 祭						授業予備日(注)
7	8	9	10	11	12	13	
						授業予備日(注)	
14	15	16	17	18	19	20	
	第4クォーター履修登録期間 11/18～24 13時まで			入学者選抜試験(推薦)			
21	22	23	24	25 振替授業(火)	26	27	
	(抽選)			履修登録予備日			
12月	28	29	30	1	2	3 授業開始(第4クォーター)	4
5	6	7	8	9	10	11	
12	13	14	15	16	17	18	
	履修登録取消申請期間						
19	20	21	22	23	24	25 冬季休業～1/7	
26	27	28	29	30	31	1	
1月	2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14 会場設営 (臨時休業)	15	
						大学入学共通テスト	
16	17	18	19	20	21	22	
	大学入学共通テスト						
23	24	25	26	27	28	29	
2月	30	31	1	2	3	4	5
						授業予備日(注)	
6	7	8	9	10	11	12	
	第2学期定期試験期間						
13	14	15 振替試験(金) 振替授業(金)	16	17	18	19	
	授業・定期試験予備日			入学者選抜試験(前期) 医学科のみ26日まで			
20	21	22	23	24 入試会場設営	25	26	
3月	27	28	1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11 春季休業～3/31 入試会場設営	12	
						入学者選抜試験(後期)	
13	14	15	16	17	18	19	
20	21	22	23	24 卒業式 (毎年3/24)	25	26	
27	28	29	30	31 第2学期終了			

- (注1) 4/29(木・祝)及び7/22(木・祝)を授業日、8/9(月・祝)を授業・定期試験予備日とする。
 (注2) 土曜日の授業予備日は、気象警報の発令等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
 (注3) オープンキャンパス: 8/5は医学部看護学科、8/6は医学部医学科(午前)・臨床心理学科(午後)・他の学部

令和3年度行事予定表（法・経済学部夜間主コース）

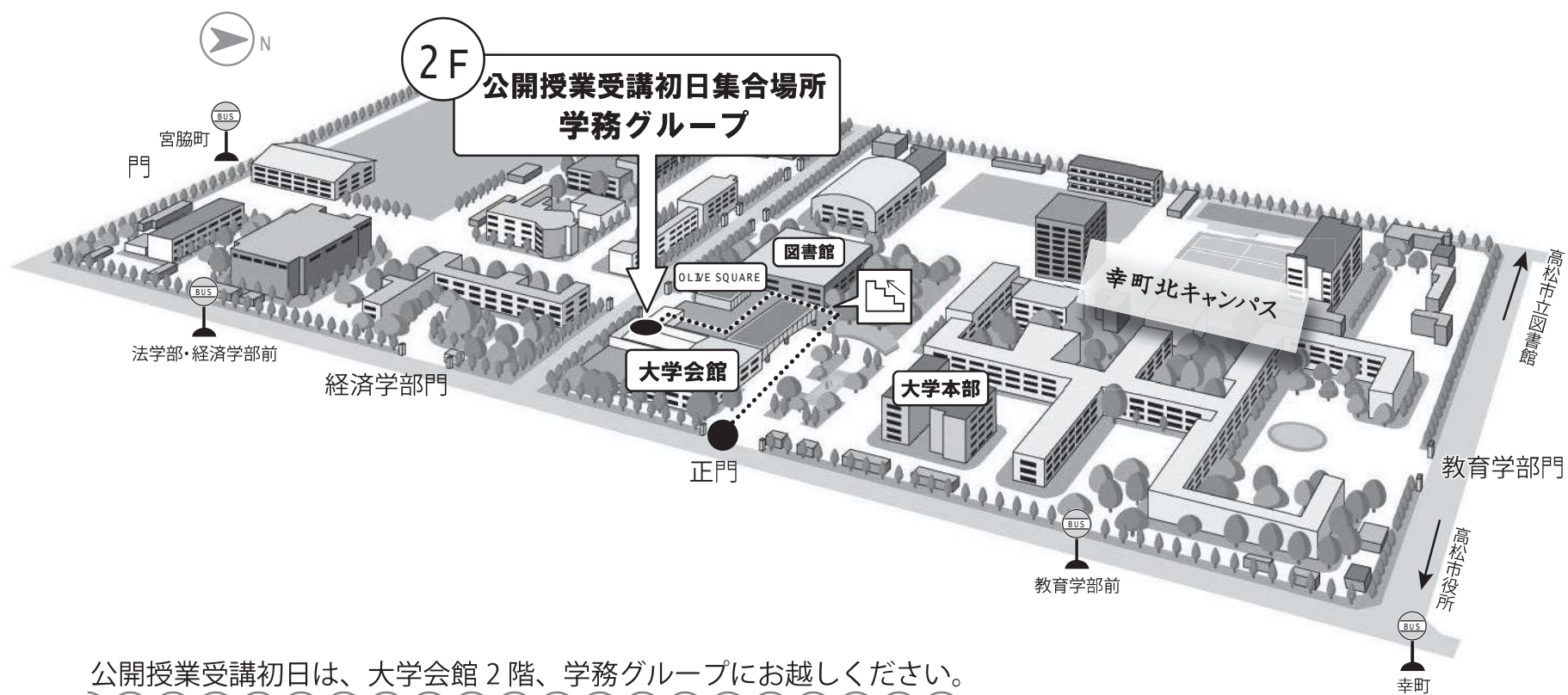
第1学期

第2学期

	日	月	火	水	木	金	土		日	月	火	水	木	金	土
4月					1 第1学期開始	2	3 入学式・ガイダンス (毎年4/3)	10月						1 第2学期開始 大学記念日	2 新入外国人留 生ガイダンス
					第1学期履修登録期間 4/1～4/13時まで										
4		5 新入生ガイダンス	6 新入生修学相談 会	7 新入生修学相談会 新入外国人留学生 ガイダンス	8 定期健康診断 新入生修学相談会 新入生歓迎祭	9 授業開始(第1学 期)	10	3		4 授業開始(第2学 期)	5	6	7	8	9
		第1学期履修登録期間(但しR3年度新入生は4/3～4/7 13時まで)			(抽選)	履修登録予備日									
11	12	13	14	15	16	17		10	11	12	13	14	15	16	
18	19	20	21	22	23	24				履修登録取消申請期間					
25	26	27	28	29 授業日(木)	30	1		17	18	19	20	21	22	23	
5月	2	3	4	5	6	7 振替授業(木)	8	11月	31	1 大学祭散収日 (臨時休業)	2	3	4	5	6
9	10	11	12	13	14	15			大学祭	8	9	10	11	12	授業予備日(注)
16	17	18	19	20	21	22		7							授業予備日(注)
23	24	25	26	27	28	29		14	15	16	17	18	19	20	入学者選抜試験(推薦)
								21	22	23	24	25 振替授業(火)	26	27	
						授業予備日(注)									
6月	30	31	1	2	3	4	5	12月	28	29	30	1	2	3	4
6	7	8	9	10	11	12				第2学期定期試験(前半)期間					
13	14	15	16	17	18	19		5	6	7	8	9	10	11	
20	21	22	23	24	25	26		12	13	14	15	16	17	18	
										履修登録取消申請期間					
								19	20	21	22	23	24	25 冬季休業～1/7	
7月	27	28	29	30	1	2	3	26	27	28	29	30	31	1	
4	5	6	7	8	9	10		1月	2	3	4	5	6	7	8
11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14 会場設営 (臨時休業)	15	
18	19	20	21 振替授業(金)	22 授業日(木)	23	24		16	17	18	19	20	21	22	大学入学共通テスト
25	26	27	28	29	30	31		大学入学共通テスト	23	24	25	26	27	28	29
8月	1	2	3	4	5 オープンキャンパス (看護学科)	6 夏季休業～9/30 オープンキャンパス	7	2月	30	31	1	2	3	4	5
8	9	10	11	12	13	14		6	7	8	9	10	11	12	授業予備日(注)
15	16	17	18	19	20	21		13	14	15 振替試験(金) 振替授業(金)	16	17	18	19	
22	23	24	25	26	27	28		20	21	22	23	24 入試会場設営	25	26	
														入学者選抜試験(前期) 医学科のみ20日まで	
9月	29	30	31	1	2	3	4	3月	27	28	1	2	3	4	5
5	6	7	8	9	10	11		6	7	8	9	10	11 春季休業～3/31 入試会場設営	12	
12	13	14	15	16	17	18		13	14	15	16	17	18	19	入学者選抜試験(後期)
19	20	21	22	23	24	25		20	21	22	23	24 卒業式 (毎年3/24)	25	26	
26	27	28	29	30 第1学期終了				27	28	29	30	31 第2学期終了			

(注1)4/29(木・祝)及び7/22(木・祝)を授業日、8/9(月・祝)を授業・定期試験予備日とする。
(注2)土曜日の授業予備日は、気象警報の発令等により休講となった授業に限り、補講を実施するものとする。
(注3)オープンキャンパス:8/5は医学部看護学科、8/6は医学部医学科(午前)・臨床心理学科(午後)・他の学部

香川大学幸町キャンパスマップ



公開授業受講初日は、大学会館 2 階、学務グループにお越しください。

高校生を対象とした公開授業及び体験授業に係る受講生・保護者連絡先

受 講 生 氏 名	
受 講 生 電 話 番 号	
受講生メールアドレス	
保 護 者 氏 名	
保 護 者 連 絡 先	

香川大学から受講決定の通知がありましたら、受講初日にこの用紙と受講料をお持ちください。（公開授業は1科目につき、「15 及び 16 回の授業は 2,300 円」、「8 回の授業は 1,800 円」。体験授業は無料。）

なお、上記の個人情報は、香川大学が高校生対象公開授業及び体験授業の実施に当たり必要な範囲において利用させていただきます。それ以外の目的に利用することはありません。